

# 令和6年度 熊本市立五霊中学校 研究について

## (1) 研究部基本方針

- ① 本校の教育目標「心豊かに、たくましく、互いに高め合う生徒の育成」のための教育活動を推進する。
- ② 研究テーマを設定し、その推進を図るため、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間での学習指導及び評価の充実を図る。
- ③ 教職員としての資質の向上を図る。

## (2) 研究の進め方

### ① 研究の内容の決定

研修の内容については、大きく次の二つを行う。

ア 全職員の共通理解のもと、本校の教育目標を達成するための研修(課題研修)

イ 教師の知識や技能の資質向上のための研修

(年3回の研究授業・月1回の教科研修・月3回 ICT 研修)

## (3) 研究テーマについて

### ① 研究主題

すべての生徒が主体的に取り組む学校の創造  
～それぞれの教育実践を通して～

### ② 主題設定の理由

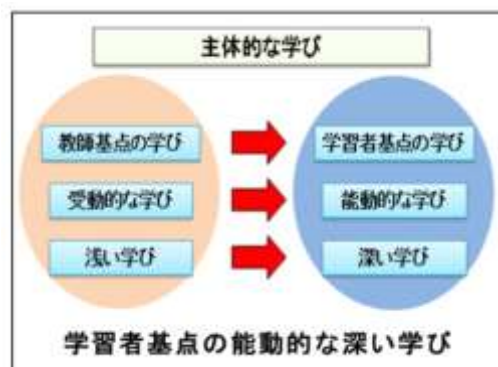
本来すべての子どもたちは「～できるようになりたい」、「～が分かるようになりたい」という願いや希望を持っている。しかし、日々の授業や学校生活において、何らかの原因でつまずいてしまうことがある。また、通常学級においても特別な支援を必要とする生徒もおり、他の生徒と同じような指示でも理解できず、うまくできないことが多くある。そのような生徒たちは、つまずきなどが積み重なっていくことで自信を失い、「どうせ自分にはできない」「やっても無駄だ」と投げやりになり、何に対しても前向きに取り組もうとしなくなってしまいう状況に陥りやすい。そういった子どもたちに対して、「～しなさい」、「なぜ～しないのか」と強制や批判を繰り返すだけでは教育的効果は望めない。そういったときに、子どもたち自らの主体的な選択と納得によって、自ら学び、取り組んでいくように導くのが教師であり、教育のプロとして真剣に考えていく必要がある。

今年度は、これまでのそれぞれの実践を踏まえながら自分の課題と向き合い、その解決に向けて部会ごとに研究テーマを設定して取り組むようにする。取組を通して、各教科の専門性や特別支援的な視点を生かしながら、各教科で身につけさせたい資質・能力を育成し、主題である「すべての生徒が主体的に取り組む学校の創造」につなげていきたい。

### 「主体的な学び」の3つのポイント

#### 1、「学習者基点の学び」とは・・・

学習の全てを生徒に委ねるということではない。教師は、児童生徒をよく観察して、児童生徒の興味・関心、既有知識、経験、生活等を把握しなければならない。生徒の実態に合わせて、課題の設定、発問の工夫や教材研究を行っていくようにする。



## 2、「能動的な学び」とは・・・

学習者が、単に活動していることをもって「能動的」とは言わない。学習形態を問わず、学習者が学習活動に自ら積極的に関与する学びでなければならない。

## 3、「深い学び」とは・・・

単に知識の習得に留まらず、学んだ知識をつなげて新たな知識を生み出したり、新たな学びを展開したりするような学びである（アウトプットの授業）。これに対して、教師から学習者に向けて一方的に授けられただけの知識は長く脳裏に留まらない（インプットの授業）。このような知識を享受するだけの学びは「浅い学び」と言われる。そこで、インプットからアウトプットの授業への変換の手がかりとして、生徒自身が課題を発見し、追究して解決していくような授業実践を行っていく。

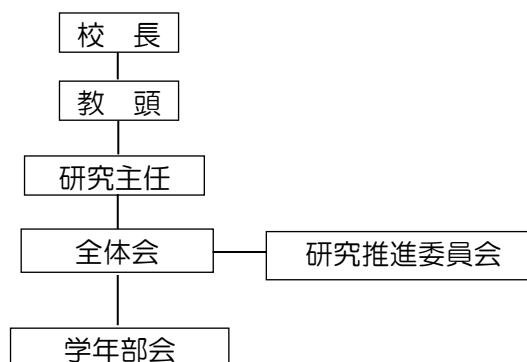
### ③ 研究の仮説

- ア 部会ごとに研究テーマを設定し、それぞれが実践したものを共有しながら深めていくことにより、教師それぞれのキャリアステージにおける能力や授業力が向上し、生徒の主体的な学びにつなげることができるのではないか。
- イ 学校生活の中で生徒が生き生きとする場の設定や活動を通して、主体性を持ち、自律した生徒の育成につながるのではないか。

### ④ 仮説に対する取組内容

- ◆ 各部会で研究テーマを設定して実践し、研究内容について深めていく。月1回の教科部会にて情報共有と進捗状況の確認を行うようにする。
- ◆ 年度の終わりに、それぞれの部会の研究のまとめを発表し、お互いの実践を共有できるようにする。
- ◆ 対話的な学びの基礎となる、話の聞き方や姿勢、2分前着席やチャイム黙想等の学習習慣の定着に向けた取組を行う。
- ◆ 生徒が主体となって取り組む場の設定やリーダーの育成を行う（生徒会、特別活動）
- ◆ 不登校生徒への学習の継続と学校とつながる取組を行う

### (4) 研究の組織及び研究推進委員会



※ 研究推進委員会メンバー：校長、教頭、研究主任、教務主任、研究推進委員